

令和3年度(2021年度) 第2回 宝塚市青少年センター運営協議会
【報告】

令和3年12月2日(木)

1 開会挨拶

宝塚市教育委員会
学校教育部長 橘 俊一

平素は、本市の青少年健全育成と非行防止にご尽力いただきありがとうございます。子どもを取り巻く環境や状況がますます変化していく中で、子どもたちの姿を外で見かけることが減り、人と関わるのが少ない子どもたちが増えてきました。学校現場ではマスクをつけることが当たり前になった今、苦しくて気分が悪くなったりしても同調圧力を感じ、外したくても言い出せない子が出てきています。マスクを着けてない人を見たら、「何か事情があるのかもしれない」と考えてみるのが大切です。子どもたちが健康で安全な生活を送れるよう、今後ともご協力のほどよろしくお願ひします。

○出席者

【宝塚市青少年センター運営協議会委員】

会長：宝塚市立山手台中学校長	吉川 雅也
副会長：宝塚市立長尾小学校長	古芝 道敏
兵庫県立宝塚西高等学校長	野崎 雅弘
宝塚市民生委員児童委員連合会 副会長	浦野 のり子
宝塚市保護司会 副会長	伊達 幸枝
兵庫県警宝塚署生活安全課少年係 係長	長宗 雄希
宝塚市青少年補導委員連絡協議会 会長	小川 瑞枝
宝塚市子ども未来部 子ども家庭室長	廣嶋 泰也

【宝塚市青少年センター運営協議会委員 事務局】

市教育委員会 学校教育部長	橘 俊一
市教育委員会 学校教育部 教育支援室長	辻本 宏敬
市教育委員会 学校教育部 教育支援室 青少年センター所長	三木健太郎
青少年センター係長	毛利 敦子
青少年センター係長	吉野 大樹

2 協議事項

(1) 令和3年度上半期(4~9月)の事業報告

- ・別紙報告のとおり
- ・青少年センターで行う事業は、5つの事業に分かれている。今後、事業統合はあるかもしれないが、事業縮小ではなく、まとめるという意味での統合が考えられる。
- ・今年度宝塚市は2年間兵庫県青少年補導委員連合会の事務局をしている。近畿地区青少年補導センター連絡協議会では、今年度兵庫県が会長で神戸市が担当している。宝塚市は副会長を担っている。兵庫県青少年補導センター連絡協議会では、宝塚市は副会長である。
- ・様々な事業を行う中で、コロナ禍のため中止となったもの、オンラインに切り替わったものがある。最近では感染状況も落ち着いてきたので、徐々に行える会議も増えてきている。
- ・個別ケース会議への参加回数が昨年度より+62になっているが、昨年度4月・5月が休校だったため、通告が少なかった。その分今年度増えたのではないかと考えられる。今年度が特別多いわけではないが、虐待は増加傾向にある。
- ・相談事業では、「子どもの心を理解する講座」を行っている。今年度はコロナの影響で人数を50人に制限して参加していただいた。抽選に外れた方にはDVDの貸し出しを行っているが、現時点でもまだ20人の方に待っていただいている状況である。
- ・啓発事業では、「アトム110番連絡所」(宝塚市は手塚プロダクションと契約しているため、アトムが使える)事業を実施している。現在1969件。最近では辞退が増えている。
- ・補導の通報状況だが、不登校の通報が多い。この場合の不登校とは、一度家を出たが、学校についていないという通報。支援課が扱っている不登校とは違うものである。
- ・不審者の通報状況は小学生に対する声かけや写真を撮らせてほしいというものが多い。
- ・補導委員の活動では、喫煙する青少年に会うことはほとんどない。資料でいうその他には、道路上でのキックボード等危険な遊びを注意することや帰宅を早くするようにという促しの声かけが主になっている。
- ・有害図書回収状況は上半期で380kgである。年々減りつつあるが、書籍やDVDは多くある。白ポストがあるからこそ子どもたちの目に触れないが、なくなれば子供に多大な影響を与える。この活動は残していかなければならないと考えている。

● 事業報告に対する質問 長尾小学校 古芝校長先生より

いつも青パトで子どもたちの下校時間にパトロールしていただき、ありがとうございます。昔は音声を流しながらパトロールしていただいていたのですが、最近では音声がなくなりましたね。音声がなくなるにあたって、何か理由があったのでしょうか。防犯の面では、音声がなかった方が子どもたちも青パトの場所が分かったり、パトロールして下さっていることが遠くから分かると良いのですが。

- A 以前、地域の方から「音声がうるさい」との苦情があった。下校時刻は、小さいお子さんのお昼寝の時間でもあり、起きてしまって困るとのこと。音声があることが、防犯の面ではよいことは分かる。センターでも非常に悩ましい問題であると認識している。

(2) 情報交換

○小学校

コロナもおさまりつつあるので、2学期から行事などがもとに戻りつつある。長尾小学校では4日間にわたり、音楽会を細分化して行った。打楽器と鍵盤の楽器のみで、保護者の方にも来ていただけた。修学旅行は、各学校ともに実施することができ、泊をとまなうものとなった。友達と一晩過ごしたり、食事をしたり、貴重な体験ができた。保護者の中には、マスクに対する意見が多い。マスク着用はお願い事項であって、強制ではない。様々な立場のご意見があり、どの保護者にも寄り添っていかなくてはならない。本来の教育活動ができないしんどさが子どもたちの中にも出てきている。また、教職員の中にも行事など100%できないことにしんどさを抱えている教員もいる。

○中学校

市内中学校の修学旅行は10～12月。近隣で一泊。熱が出ても保護者の方に迎えに来てもらえる距離で計画を立てていた。体育大会・トライやるウィークも通常通りはできない。形を変えてトライやるウィークを行う学校が多かった。オープンスクールや行事も少しずつ戻りつつある。しかし、不登校が増え親子関係が悪くなった家庭、虐待、家庭内でのケンカなどが増えている。

○高等学校

儀式はリモートで行っていたが、2学期終業式から全校生徒を集めた形で行う予定。宝塚西高校では修学旅行は石垣島へ行く予定。1月末に北海道へ行く学校もある。問題行動は少なくなっているが、SNSでのトラブルが多い。ノリでやってしまう、深く考えずにやってしまうことが増えている。来年度からは高校もタブレットを使った授業を行っていく予定。

○民生児童委員

行事や会議が少しずつできるようになってきた。ヤングケアラーについては把握できていない。兄弟喧嘩や父の暴力で警察に来てもらう家庭があった。総合防災課から生理用品が届いたが、学校に配るのはどうしたらよいか？児童館などには配布済み。
→教育委員会より：「まだ聞いていないお話なので、少しお待ちください。」

○保護司

少年犯罪が減少傾向にある。保護観察1号・2号は少年に関する内容で、その件数は年々減っている。全国の保護観察の件数が15年前に比べ、半減している。

○宝塚警察

非行少年は減っている。R2 補導・触法少年は 567 件（宝塚）だった。何年か前は 4 桁あった数字が今はかなり減っている。深夜徘徊も減っている。補導される子、犯罪する子が減っているのはいいことだが、はたして家の外に出ないことがいいことなのか疑問である。

○補導委員

子どもたちの表情を一番よくみているのは親、その次が先生、その次が私たち補導委員ではないかと思う。パトロールしていると、公園で遊ぶ子どもたちはとても多い。私たちは子どもたちの顔を見たり、声を聞いたりするのが仕事ではないか。民生委員さんのお弁当配布は口コミだったので、同じ子が買いに来ていた。パトロール中に気になるのが、自動車運転のあらさ、高校生のながら運転、無灯火運転、すべて命に関わることである。子どもたちにも自分の命は自分で守ることを心がけるよう伝えるが、一般の方に交通ルールを守っていただきたい。皆様、今後とも様々な情報共有をよろしくお願いいたします。

○宝塚市子ども未来部

児童虐待の件数が増えている。心理的虐待、DV の通報も増えている。児童虐待の背景に発達に関する課題もあるので、新庁舎で新しく取り組んでいく。

○その他

・教育委員会より

12 月をいじめ防止月間として、それぞれの学校でいじめを意識して授業や生徒会の取り組みを行っている。

・青少年センターより

Twitter で情報を提供している。またご覧ください。

3 閉会挨拶

宝塚市教育委員会学校教育部

教育支援室長 辻本 宏敬

本日は、お忙しい中ありがとうございました。それぞれの立場より貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

情報交換でもありましたが、補導される子どもたちが減り、外に出ずに家の中にいる子どもが増え、その子たちがそのまま大人になり社会に出ていくことは確かに心配なことだと思います。

今後も、情報交換の充実と実践を活発にして、活動していきたいと思いますので、よろしくご協力をお願いします。